

米國の都市交通取締條例準則 (三) [完]

武井群嗣

第七章 車馬ノ操縱

第三十七條 街路の右側通行

一方交通ノ街路以外ノ總テノ街路ニ於テ、車馬ノ操縱者ハ其ノ街路ノ右側ヲ進行スヘク、特ニ緩行車馬ノ操縱者ハ不可能ナル場合又ハ追及追越ニ關スル規則ニ從ヒ適當ナル限度ニ於テ他ノ車馬ヲ追越ス場合ヲ除クノ外、出來得ル限り街路ノ縁石線ニ沿フテ其ノ車馬ヲ操縱スルコトヲ要ス。前項ノ規定ハ街路上ニ通行路線ヲ標示シ又ハ特別ノ方向若ハ速度ヲ標示スルコトヲ妨クルモノニ非ス。

第三十八條 交叉點ニ於ケル轉向

一 右轉向。交叉點ニ於テ又ハ小路又ハ私道ニ入ル爲右轉向ヲ爲サントスル場合ニ於テ車馬ノ操縱者ハ街路ノ右側端又ハ右側縁石ニ最モ近キ通行路線ニ於テ轉向線ニ近接スヘク、轉向ニ際シテモ出來得ル限り街路ノ右側端又ハ右側縁石ニ接近シテ進行スルコトヲ要ス。

二 左轉向。交叉點ニ於テ又ハ私道ニ入ル爲左轉向ヲ爲サントスル場合ニ於テ、車馬ノ操縱者ハ車道ノ右側ニシテ其ノ中心ニ近キ通行路線ニ於テ轉向點ニ近接スヘク交叉點ニ於テ左轉向ヲ爲スニ當リテハ「轉向標識」ニ依リテ之ト異ナル指揮アル場合ノ外、轉向ヲ爲スニ先

立交又點ノ中心ノ右方ヲ進行スルコトヲ要ス。通行路線ヲ設ケ又ハ一方交通ヲ爲ス街路ニ在リテハ、左轉向ハ通行路線ノ左側ヨリ之ヲ爲スヘシ。

三 轉向標識(交通當局)ハ左轉向ヲ爲ス交通ニ對シ前項ニ規定シタル以外ノ通行線ニ依ルヘキ旨ヲ指示スル轉向標識ヲ交叉點内又ハ其ノ入口ニ設置スルノ權限ヲ有ス。此ノ規定ニ依ル轉向標識ノ設置アリタル場合ニ於テハ、左轉向ハ該標識ニ指示スル通行線ニ依ルコトヲ要ス。

四 「進メ」信號ニ於ケル左轉向。交通ガ交通整理信號又ハ警察官ニ依リテ整理セラル、交叉點ニ於テ左轉向ヲ爲サントスル車馬及電車ノ操縦者ハ、事故ヲ惹起セシメサル様相當ノ注意ヲ拂ヒ、且「進メ」ノ信號アリタルトキニ於テノミ進行スルコトヲ得。但シ警察官ニ依リト異ナル指揮ヲ與ヘラレタルトキハ此ノ限ニ在ラズ。

「註」 直進又は直行の進行を指揮する綠色又は「進メ」の信號を

爲す場合に於て轉向を許容する特例の存する地點に於ては、本項但書に「又ハ公認交通標識若ハ晝夜トモ有效ナル特殊ノ信號ニ依リ」の語を補足すべきなり(尙、第十條の註參照)

第三十九條 轍回ノ制限

如何ナル車馬ノ操縦者ト雖其ノ車馬ヲ安全ニ爲シ得テ而カモ後退セス又他ノ交通ノ妨害トナルコトナクシテ反對ノ方向ニ轉スルニ非サレハ其ノ轍回ハ違法ナリ。

「註」 或る交叉點に於て轉回を禁止する必要あるときは、該禁止を標識又は記號を以て其の交叉點に表示することを要す。

第四十條 小路又ハ私道ヨリ車道ニ進入スル場合

小路、私道又ハ「ビルディング」ヨリ車道ニ進入セントスル車馬ノ操縦者ハ小路ヲ遮斷シテ延長セル步道又ハ步道タルヘキ區域ニ入ラントスル直前ニ於テ其ノ車馬ヲ一時停止セシムベシ。

第四十一條 歩道上ノ運轉禁止

車馬ノ操縦者ハ步道ノ區域内ニ於テ車馬ノ運轉ヲ爲スコトヲ得ス。但シ、常時又ハ一時的ノ私道ニ於テスルハ此ノ限

在テス。

第四十二條 公認非常用車馬ノ接近セル場合ニ於

ケル車馬ノ操縦

公認非常用車馬ガ「ベル」、「サイレン」又ハ汽笛ノ如キ音響ニ依ル合圖ヲ爲シツ、接近シ來ル場合ニ於テハ、他ノ車馬ノ操縦者ハ直ニ其ノ車馬ヲ出來得ル限り街路ノ右側端又ハ右側縁石ニ接近シテ之ト並行セシメ且ツ交叉點ヲ離レテ停止シ、警察官ニ依リ特別ノ指揮ヲ與ヘラレサル限り、當該公認非常用車馬ガ通過シ終ル迄其ノ位置ニ停留スベク、電車ノ操縦者ハ直ニ其ノ電車ヲ交叉點以外ノ地點ニ停車セシメ警察官ガ特別ノ指揮ヲ與ヘサル限り、當該公認非常用車馬カ通過シ終ル迄其ノ位置ニ停留スルコトヲ要ス。

第四十三條 消防用車ヲ追走スルノ禁止

公務ニ依ル場合ノ外、如何ナル車馬ノ操縦者ト雖出火警報ニ應シテ進行スル消防裝置ニ對シ五百呎以内ノ地點ニ接近シテ之ヲ追走シ、又ハ出火警報ニ應シ消火ニ從事スル爲ニ停止セル消防裝置ノ現在スルト同一ノ街廓内ニ進入シ若ハ

停車スルハ違法ナリ。

「註」 都市に依りては「街廓内」の語に代ふるに五百呎の制限を以てするも可なり。

第四十四條 直通街路ニ入ル前ノ停車

左記ノ街路及街路ノ一部ハ之ヲ本條ノ規定ニ依ル直通街路ト定ム。……街路名。

前記ノ直通街路ト交叉スル街路ヲ疾走スル車馬、電車又ハ其ノ他ノ運搬具ノ操縦者ハ何人ト雖其ノ車馬ノ電車又ハ運搬具ヲ、其ノ街路ガ該直通街路ト住宅地トノ境界線ノ延長ニシテ右ノ街路ニ最モ接近セルモノニ交會スル地點ニ於テ完全ニ停止セシムヘシ。但シ、該交叉地點ニ於テ交通整理ノ信號若ハ標識又ハ警察官ノ指揮アルトキハ之ニ從フモノトス。

前項ノ規定ニ從ヒ完全ニ停止シタル車馬ノ操縦者ガ直通街路ニ入ルニ付テハ、該直通街路上ニ在ル車馬ノ操縦者ト共ニ、交叉點ニ於ケル車馬ニ適用セラル、通行權ニ關スル本條例ノ規定ニ從フモノトス。

(交通當局)ハ第一項ノ直通街路ニ交又スル各街路及直通街路ト住宅地トノ境界線又ハ其ノ附近ニ適當ナル標識ヲ(車道上ニモ適當ナル裝置又ハ記號ヲ)設置シ及之ヲ維持シ又ハ之カ設置及維持ヲ爲スノ權能ヲ有シ且之ヲ爲スコトヲ要ス。斯カル位置ニ設備スヘキ前示ノ標識、裝置又ハ記號ニハ「止レ」ノ文字ヲ表示スヘク、該文字ハ之ヲ明瞭ニ記シ、直通街路ニ交又スル街路ニ沿ヒ少クトモ百呎ノ距離ヨリ明瞭ニ讀ミ得ラルル大サヲ有スヘシ。總テ是等ノ標識ハ夜間ニ於テハ照明ヲ施サレ又ハ街燈若ハ之ニ接近スル自動車ノ前燈ニ依リテ照明セラル、位置ニ在ルコトヲ要ス。

第四十五條 一方交通街路

左記ノ街路ニ於ケル車馬ノ交通ハ唯(——)ノ方向ニノミ進行スルコトヲ要ス。

(街路名)

反對ノ方向ニ進行スルコトヲ禁スル交又點ニハ其ノ交通ノ方向ヲ指示スル標識ヲ設備シ且之ヲ維持スルコトヲ要ス。

「註」第七章には都市交通取締條例中に規定することを可認むる事項を掲げたるも、州車馬取締法の規定と抵触するもの及其他の州法の規定と重複するものは之を除きたり。州車馬取締法中には速度の制限、疾走の禁止の如き道路取締に關する規定を含むものあり。一般には都市の條例中に斯かる州法の規定と重複するものを規定するの要なしと認めらる。

然しながら、或る州に於ては地方的強制力を有たしむる爲に州法の規定を都市の條例中に反復して規定するの必要を認められ、又或る州に於ては州法中にあらゆる事項を包括して規定することを爲さざるものあることに注意せざるべからず。

第八章 雜則

第四十六條 運轉手不在ノ自動車ハ「ブレーキ」

ヲカケ「エンジン」ヲ止ムル事

自動車ノ運轉ヲ爲シ又ハ運轉ニ付責任アル者ハ何人ト雖其ノ自動車ヲ離ル、場合ニハ、如何ナル街路ニ於テモ先ヅ其ノ「ブレーキ」ヲカケ且「エンジン」ヲ止ムルコトヲ要シ若シ相當傾斜セル地點ニ自動車ヲ停ムル場合ニハ其ノ車輪

ヲ縁石又ハ街路若ハ道路ノ側端ニ向ケ置クコトヲ要ス。

第四十七條 滑走機、「ローラー・スケート」其ノ

他之ニ類スル器具ノ使用ノ制限

何人ト雖横斷歩道ヲ通過スル場合ノ外「ローラー・スケート」ニ乗り又ハ滑走機、遊戯用車馬若ハ之ニ類似スル器具ニ依リテ車道ヲ通行スルハ違法トス

第四十八條 運轉中ノ車馬ニ繩リ付ク事

何人ト雖自轉車、自動自轉車、滑走機、橇、「ローラー・スケート」又ハ遊戯用車馬ニ乗リタル者カ車道ニ於テ他ノ車馬又ハ電車ニ繩リ付キ又ハ其ノ乗リタル車馬ヲ之ニ取り付ケテ進行スルハ違法トス。

「註」正しからざる方法に依りて電車又は車馬に乗ることは第二十三條、第五十一條及第五十三條に於て之を禁止する所なり。

第四十九條 交通整理信號又ハ警察官ノ指揮ニ依

ルノ外、行列ノ間ヲ運轉スルノ違法

如何ナル車馬又ハ電車ノ操縦者ト雖葬列其ノ他公認セラレ

タル行列ヲ構成スル車馬ガ其ノ目的ニ從ツテ進行中ナルコト明ナル場合ニ於テ其ノ車馬ノ間ヲ運轉スルハ違法トス。前項ノ規定ハ交通ガ交通整理信號又ハ警察官ニ依リテ指揮セラル、交又點ニ於テハ之ヲ適用セス。

第五十條 後退ノ制限

車馬ノ操縦者ハ其ノ操縦ヲ安全ニ爲シ得ル場合ノ外、車馬ノ後退ヲ爲スヘカラス。

第五十一條 操縦者ノ視界又ハ運轉機關ノ妨害

一 如何ナル車馬ノ操縦者ト雖其ノ車馬ノ積荷若ハ前方坐席ニ在ル多數ノ乗客ガ操縦者ノ前方及側方ノ視界ヲ遮リ又ハ其ノ車馬ノ運轉機關ヲ操縦スルコトヲ妨ゲラルル場合ニ於テ、其ノ車馬ヲ操縦スルハ該操縦者ノ違法トス。

二 如何ナル車馬又ハ電車ノ乗客ト雖操縦者ノ前方及側方ノ視界ヲ遮リ又ハ其ノ車馬ノ運轉機關ノ操縦ヲ妨グル位置ニ乗車スルハ該乗客ノ違法トス。

第五十二條 消防用水管ノ横斷

如何ナル電車又ハ車馬ト雖、其ノ指揮ヲ爲セル消防隊長又ハ消防官署ノ承諾ナクシテ、火災又ハ火災警戒ノ爲街路、私道又ハ電車線路ニ排置シタル保護裝置ナキ消防用水管ヲ横切リテ其ノ電車又ハ車馬ヲ運轉スルハ違法トス。

第五十三條 「ハンドル」ニ乗ルコトノ禁止

自轉車又ハ自動自轉車ノ操縱者ガ街路ニ於テ他人ヲ其ノ把手横木、骨組又ハ油槽ニ乗セテ運フハ違法トス。斯ノ如キ方法ニテ乗ル者モ亦違法トス。

第五十四條 駐車セル車馬ノ點燈

車馬ガ日没後一時間半ヨリ日出前一時間半迄ノ間ニ於テ又ハ二百呎ノ距離ヨリ其ノ車馬ヲ明瞭ニ識別スルコトヲ得ルニ十分ナル照明ナキ所ニ於テ街路上ニ駐車又ハ停車セラルル場合ニハ其ノ車馬ニ一以上ノ點燈ヲ爲スコトヲ要ス。此ノ點火ハ空氣ノ常態ナル時ニ於テ車馬ノ前方五百呎ノ距離ヨリ識別スルコトヲ得ル白色光及同様ノ状態ニ於テ後方五百呎ノ距離ヨリ識別スルコトヲ得ル黄色光又ハ赤色光トス。但シ、斯カル駐車燈ハ街路上二百呎ノ距離以内ニ在ル

何人ヲモ識別スルコトヲ得ルニ十分ナル照明ヲ有スル所ニシテ(交通當局)ニ依リ指定セラレタル街路ニ於テ本條例中ノ他ノ規定ニ從ヒ停車又ハ駐車スル車馬ニハ之ヲ備フルコトヲ要セス。

第九章 罰則及拘引手續

第五十五條 處罰

本條例ノ規定及之ニ基キテ(警察部局)ノ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ハ輕罪トシテ左ノ如ク處罰ス。

第五十六條 拘引ノ手續

第五十七條 罰金及沒收金ノ處分

本條例ノ規定ニ違反シ處罰セラレタルニ依リ徵收シタル罰金又ハ沒收シタル保證金ハ之ヲ市金庫ニ納入シ(何)基金トシテ左記ノ目的ニ充用スルコトヲ得。

左記 何々

第五十八條 條例ノ效力

本條例ノ章、條、項、號又ハ語句ガ何等カノ理由ニ依リ憲

法ニ違反ストセラル、コトアリトモ、其ノ決定ハ本條例中ノ其ノ他ノ部分ニ何等ノ影響ヲ及ボスモノニ非ス

(市會、評議員會)ハ本條例ニ協賛シ且其ノ章、條、項、號又ハ語句ノ或ルモノカ違憲ナリト宣告セラル、コトアリトスルモ、其ノ他ノ章、條、項、號又ハ語句ノ有效ナルコトヲ茲ニ宣言ス。

第五十九條 廢止

本(市)條例第何號(前本市交通取締條例)ハ之ヲ廢止ス。本條例ノ規定ト抵觸スル總テノ條例又ハ條例ノ部分ハ之ヲ廢止ス。但シ、本條例ノ實施前ニ於テ之等ノ廢止セラレタル條例ニ違反シタル者ノ訴追及處罰ハ之ガ爲ニ何等ノ影響ヲ受クルコトナシ。

第六十條 條例ノ公示

(市書記)ハ本條例ノ裁可ヲ確證シ之ヲ——ニ揭示スルノ手續ヲ執ルヘシ。

「條例中ニ規定スルコトヲ勸告スル條項」

州法ニ規定スル事項ニシテ都市條例中ニ重複シテ規定スル

ヲ可ト認ムルモノ次ノ如シ。

抑々是等ノ事項ハ州車馬取締法ノ規定ト同一ナルカ又ハ地方ノ狀況ニ適合スヘク之ニ若干ノ修正ヲ加ヘタルニ過キサシルモノナルヲ以テ、寧ロ之ヲ州法中ニ規定スルヲ可ト認ムルモ、地方的強制力ヲ有タシムル爲又ハ州法ノ規定ノ十分ナル爲是等ノ事項ヲ都市條例中ニ重複シテ規定スルノ必要アル州ニ於テハ、左記ノ條項又ハ其ノ必要ナル部分ヲ條例準則第七章「車馬ノ操縦」中ニ編入シ規定スヘシ。

第一 酒類又ハ麻酔劑ノ使用者

麻酔劑ヲ常用スル者又ハ酒類若ハ麻酔劑ヲ現ニ使用セル者カ街路又ハ公道ニ於テ車馬ヲ運轉スルハ違法トス。

前項ノ規定ニ違反シタル旨ノ宣告ヲ受ケタル者ハ都市刑務所ニ於ケル三十日以上(一年)以下ノ禁錮若ハ百弗以上千弗以下ノ罰金又ハ其ノ兩者ニ處ス。前科アル者ハ九十日以上一年以下ノ禁錮及裁判所ノ判決ニ於テ一千弗以下ノ罰金ニ處ス。

第二 不注意ノ運轉

道路ニ於テ不注意輕卒ニ他人ノ權利若ハ安全ヲ故意若ハ不法ニ無視シ又ハ他人ニ危害ヲ與ヘ若ハ與フル虞アル速度若ハ方法ヲ以テ車馬ノ運轉ヲ爲ス者ハ不注意運轉ノ罪アルモノトス。

不注意運轉ノ宣告ヲ受ケタル者ハ都市刑務所ニ於ケル五日以上九十日以下ノ禁錮若ハ二十五弗以上(五百弗)以下ノ罰金又ハ其ノ兩者ニ處ス。前科アル者ハ十日以上六月以下ノ禁錮若ハ五十弗以上(一千弗)以下ノ罰金又ハ其ノ兩者ニ處ス。

第三 速度ニ關スル制限

一 道路ニ於テ車馬ヲ運轉スル者ハ合理的且適當ノ程度ヲ超エス且注意ト要領トヲ用ヒタル速度ヲ以テ、道路ノ交通、路面及幅員其ノ他ノ現ニ存スル事情ニ付必要ナル顧慮ヲ爲シツ、運轉スヘシ。何人ト雖道路上ニ於テ他人ノ生命、身體、又ハ財産ニ危害ヲ加フル如キ速度ヲ以テ車馬ヲ運轉スルコトヲ得ス。

二 本條例ニ於テ特ニ低速度ヲ定メタル場合ノ外、車馬ヲ

運轉スル者ハ前項ノ規定ニ從ヒ且左記ノ速度ヲ超エサル程度ニ於テ運轉スルヲ當然ニ適法ナリトス。但シ、左記ノ速度ト雖他ノ事由ニ因リ安全ナラサル場合ニ於テハ適法ト謂フコトヲ得ス。

1 運轉者ノ視界カ妨ケラル、場合ニ於テ汽車、電車ノ踏切地點ニ五十呎以内接近シタルトキハ時速十五哩。

斯カル踏切地點ニ接近スル場合ニ於テ最後ノ二百呎以内ニ於テハ何時ニテモ其ノ踏切地點ヲ明瞭ニ且遮ラル、コトナク見ルヲ得サルトキ及鐵道線路上ノ交通ガ該踏切地點ヨリ兩方各四百呎ノ距離ノ間ニ於テ明瞭ニ且遮ラル、コトナク見ルヲ得サルトキハ運轉者ノ視界ハ妨ケラレタルモノトス。

2 學校ノ始業時ヨリ終業時迄ノ間ニ於テ休業時及兒童ノ登校又ハ退校シツ、アル時ニ於テ學校ヲ通過スルニ際シテハ時速十五哩。

3 道路ノ交叉點ニ五十呎以内接近シタルトキ及交叉

點ヲ通行スルトキ運轉者ノ視界ガ妨ケラル、場合ニ於テハ時速十五哩。

斯カル交又點ニ接近スル場合ニ於テ最後ノ五十呎以内ニ於テハ何時ニテモ其ノ交又點ヲ明瞭ニ且遮ラルルコトナク見ルヲ得サルトキ及其ノ交又點ニ入り來ル總テノ道路交通ガ該交又點ヨリ各方二百呎ノ距離ノ間ニ於テ明瞭ニ且遮ラル、コトナク見ルヲ得サルトキハ運轉者ノ視界ハ妨ケラレタルモノトス。

4 道路ノ屈曲部ヲ廻ルトキ若ハ横キルトキ又ハ傾斜部ヲ横キルトキ、其ノ進行スル方向ニ於テ斯カル道路ニ沿ヒ百呎ノ距離以內ニ於テ運轉者ノ視界カ妨ケラル、場合ニ於テハ時速十五哩。

5 商業地區ニ於ケル道路上ノ交通ガ交又點ニ於テ交通官吏又ハ「進メ」「止レ」ノ信號ニ依リテ指揮セラル、場合ニ於テハ時速二十哩。

6 商業地區ニ於ケル其ノ他ノ總テノ道路ニ於テハ時速十五哩。

7 住宅地區及公園ニ於テハ、地方行政廳カ特ニ之ト異ナル速度ヲ定メ揭示セサル限り時速二十哩。

8 前各號以外ノ總テノ場合ニ於テハ時速二十五哩。何人ト雖前各號ニ規定スル制限ヲ超ユル者ハ當然ニ違法ナリトス。

本條ノ何レニ違反スル場合ニ於テモ、告發、召喚又ハ出頭ノ命令ニハ被告ガ運轉シタリトスル速度ヲ明記シ且該違反行爲アリタル時及場所ニ於ケル當然ニ適法ナリトセラル、速度ヲ記載スルコトヲ要ス。

第四 鐵道警戒信號ニ對スル服從

車馬又ハ市街電車ヲ運轉スル者カ道路ト汽車又ハ郊外鐵道トノ平面交又地點ニ接近シタル場合ニ於テ明瞭ニシテ積極的ナル信號カ列車又ハ車輛ノ著シク接近シ來ルコトヲ警戒スルトキ、其ノ踏切地點ヲ通過スル前ニ於テ完全ニ其ノ運轉スル車馬ヲ停止セシメサルハ違法トス。

第五 特定ノ鐵道踏切ニ於ケル車馬ノ停止

(當該行政廳)ニ於テ特定ニ危險ナル街路又ハ道路ト汽車又

ハ郊外鐵道トノ平面交又地點ヲ指定シ又ハ該地點ニ標識ヲ設置シ若ハ設置スルノ手續ヲ爲シ、斯カル街路又ハ道路ヲ通行スル車馬ノ運轉者及市街電車ノ操縦者ニ對シ該鐵道踏切地點ヲ通過スル前ニハ先ツ完全ニ停車スヘキコトヲ注意シタル場合ニ於テ、車馬ノ運轉者又ハ電車ノ操縦者カ右ノ踏切地點ヲ通過スル前、該地點ヨリ五十呎以内ニシテ十呎以上ヲ離レタル地點ニ停車セサルハ違法トス。

第六 總テノ鐵道踏切ニ於ケル特定車馬ノ停止市街電車、客ヲ乗セタル乗合自動車、學校兒童ヲ乗セタル學校乗合自動車、積荷若ハ其ノ一部トシテ特ニ重量ヲ有スル爆發物若ハ爆發液ヲ載セタル貨物自動車、其ノ他貨物用ニ非サル牽引車ノ運轉者ハ汽車又ハ郊外電車ノ線路ヲ平面的ニ横斷スル前ニ於テ其ノ線路ノ最近地點ヨリ十呎以上五十呎以内ヲ離レタル地點ニ其ノ車ヲ停止シ、停車中該線路ノ兩方向ヲ注視且傾聽シテ列車又ハ車輛ノ接近スルモノナキヤ否ヲ確ムヘシ。

前項ノ規定ハ街路若ハ道路ト郊外電車線路以外ノ市街鐵道

線路ト交又スル地點又ハ交通整理信號若ハ警察官ニ依リテ指揮セラル、交又點ニハ之ヲ適用セス。

「註」 乗合自動車、學校乗合自動車其ノ他特定の車馬が汽車及郊外電車ノ線路に於て停止することを要する規定は相當多數の州自動車取締法中に之を見るも、未だ統一車馬法與中に見ざる所なるを以て、都市交通條例に關する委員會は各州に於て此の要求の採用せらるゝことを希望し、若し州法中に採用せられざるに於ては都市條例中に之を挿入せられんことを希望するものとす。

第七 交又點又ハ鐵道ヲ横斷スルトキハ右側ヲ通行スルコト

道路ノ交又點又ハ鐵道通行權ニ依ル道路トノ交又點ヲ通過スル場合ニハ、一方交通ノ街路ニ於ケル場合ヲ除キ、車馬ノ操縦者ハ障礙物アルカ若ハ通行不可能ニ非サル限り、必ス道路ノ右半側ヲ通行スヘシ。

第八 車馬ノ行進

相對向スル方向ニ進行スル車馬ノ操縦者ハ出來得ル限り相近接シツ、車道ノ主タル交通部分ノ少クモ二分一ヲ相互ニ

譲リ合ヒテ其ノ右方ヲ進行スヘシ。

第九 車馬ノ追及、追越

同一方向ニ進行スル他ノ車馬ニ追及シ之ヲ追越サントスル車馬ノ操縦者ハ前者ノ左方安全ナル距離ニ於テ之ヲ爲シ、其ノ追越サレタル車馬ノ進路安全トナル迄ハ再ヒ道路ノ右側ニ出テテ進行スルコトヲ得ス。

第十 追及追越ノ特權ニ對スル制限

一 同一方向ニ進行スル他ノ車馬ニ追及シ之ヲ追越サントスル場合ニ於テ、其ノ左側ヲ明瞭ニ見通スコトヲ得且其ノ追及追越ヲ安全ニ爲シ得ルニ十分ナル距離ノ間ニ先方ヨリ進行シ來ル車馬ナキ場合ニ非サレハ、車馬ノ操縦者ハ道路ノ中心線ノ左側ヲ進行スルコトヲ得ス。
前項ノ規定ハ一方交通ノ街路又ハ通行路線ヲ設ケタル街路ニ之ヲ適用セス。後者ノ場合ニ在リテハ該路線ニ於テ許容セラレタル方向ニノミ進行スルコトヲ要ス。
二 車馬ノ操縦者ハ汽車若ハ電車線路ノ踏切地點又ハ道路ノ交叉點ニ於テハ、其ノ操縦ノ安全ニ爲シ得ラル、場

合ノ外、同一方向ニ進行スル他ノ車馬ニ追及シ之ヲ追越スコトヲ得ス。

第十一 操縦者ハ追越ス車馬ニ道ヲ讓ルコト

道路上ニ於テ後方ヨリ來レル他ノ車馬ニ追及サレ且追越サルレンドスル車馬ノ操縦者ハ、後方車馬ノ操縦者ヨリ適當ナル音響ノ信號アリタルトキハ、其ノ車馬ニ好意ヲ以テ道ヲ譲リ自己ノ車馬ガ完全ニ追越サル、迄其ノ速度ヲ増スコトヲ得ス。

第十二 過度ノ隨進

一 自動車ノ操縦者ハ他ノ車馬ノ速度ヲ測リ道路ノ狀況及其ノ交通ニ注意シ適當且慎重ノ度ヲ超エテ他ノ車馬ニ接近シ之ニ隨進スヘカラス。

二 商業地區又ハ住宅地區以外ノ道路ニ於テ貨物自動車ヲ操縦スル者ハ百呎以内ニ於テ他ノ貨物自動車ノ後ニ續クヘカラス。但シ此ノ規定ハ他ノ貨物自動車ヲ追及追越スルコトヲ妨ケス。

第十三 出發、停止及轉向ノ信號

一 道路上ニ於テ車馬ヲ操縦スル者カ其ノ車馬ヲ出發、停

第十四 通行權

止又ハ轉向セシメントスル場合ニハ、先ツ斯カル操作

一 交叉點ニ接近セル車馬ノ操縦者ハ既ニ交叉點ニ乗り入

ノ安全ニ爲シ得ルヤ否ヤヲ確カメテ後ニ爲スヘク、若

レタル車馬ニ通行權ヲ讓ルヘシ。二臺ノ車馬ガ同時ニ

シ歩行者ガ其ノ操作ニ依リテ影響セラルルトキハ警笛

交叉點ニ入りタル場合ニ於テハ、左側ニ在ル車馬ノ操

ヲ鳴ラシテ明瞭ニ聽取シ得ル信號ヲ與ヘ、又若シ他人

縦者ハ右側ニ在ル車馬ノ操縦者ニ通行權ヲ讓ルヘシ。

車馬ノ操縦者カ其ノ操作ニ依リテ影響セラル、トキハ

二 交叉點内ニ於テ車馬ノ操縦者カ反對ノ方向ヨリ接近シ

其ノ操作ヲ爲スノ意思カ他ノ車馬ノ操縦者ニ於テ明瞭

來ル車馬ノ進路ヲ遮リテ左方ニ轉向セントスルトキハ

ニ認識シ得ラル、爲本條ニ於テ要求スル信號ヲ與フル

法律ノ規定ニ依ル信號ヲ與ヘ且其ノ車馬ノ操縦者ニ衝

コトヲ要ス。

突ヲ避クヘキ十分ノ機會ヲ與ヘタル後ニ於テ爲スヘ

二 本條ニ於テ要求スル信號ハ手及腕ノ運動ニ依ルカ又ハ

第十五 通行權ノ原則ニ對スル例外

機械若ハ電氣裝置ノ信號ニ依ルコトヲ要ス。但シ、車

一 私道ヨリ公道ニ出テントスル車馬ハ其ノ公道上ヲ接近

馬ノ構造又ハ積載貨物カ手及腕ノ信號ヲ前後兩方ヨリ

シ來ル總テノ車馬ニ通行權ヲ讓ルヘシ。

見ルコトヲ遮ル場合ニ於テハ州廳自動車課ノ認可セル

二 街路ニ於テ車馬ヲ操縦スル者ハ公認非常用車馬カ公用

形式ノ裝置ニ依ルヘシ。

ノ爲鈴、サイレン又ハ汽笛ヲ鳴ラシテ運轉セラル、場

手及腕ニ依リテ信號ヲ與フル場合ニハ運轉者ハ必ス其

合ニ於テハ之ニ通行權ヲ讓ルコトヲ要ス。

ノ手及腕ヲ水平ニ伸シテ車體ノ左側ニ出シ、以テ出發

本項ノ規定ハ公認非常用車馬ノ操縦者ガ街路ヲ使用ス

停止又ハ轉向ノ意思ヲ示スコトヲ要ス。

ル總テノ人ニ對シ必要ナル顧慮ヲ爲スノ義務ヲ免除スルモノニ非ス。又當該操縦者カ其ノ通行權ヲ恣ニ行使シタル結果ヲ保護スルモノニ非ス。

第十六 道路上ノ停車

商業地區及住宅地區以外ノ道路ニ於テハ、操縦者ノ不在ヲ問ハス、又之ヲ爲シ得ル場合ト雖、鋪裝セル道路、改良セル道路又ハ新カル道路ノ主トシテ交通ニ供セラル、部分ニ其ノ車馬ヲ停車又ハ駐車スヘカラス。但シ前記道路ノ主トシテ交通ニ供セラルル部分ニ他ノ車馬ノ自由ニ通過スルコトヲ得ル爲ニスル十五呎以上ノ障礙ナキ幅員ヲ存シ、又ハ其ノ道路ノ前後二百呎ノ距離ヨリ當該車馬ヲ明瞭ニ見ルコトヲ得ル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス。

前項ノ規定ニ違反シテ道路上ニ停車セル車馬ヲ發見シタル警察官ハ本條ノ規定ニ依リ許サレタル位置ニ該車馬ヲ移轉シ又ハ其ノ車馬ノ操縦者若ハ責任者ニ移轉スルコトヲ要求スルノ權限ヲ有ス。

本條ノ規定ハ鋪裝セル道路、改良セル道路又ハ新カル道路

ノ主トシテ交通ニ供セラル、部分ニ於テ其ノ車馬ヲ停止シ一時的ニ之ヲ放置スルコトヲ避クル能ハサル狀態及程度ニ破損シタル車馬ノ操縦者ニ之ヲ適用セス。

第十七 下ノ禁止

道路ニ於ケル下リ坂ヲ通行スル車馬ノ操縦者ハ「ギーヤ」ヲ「ニュートラル」ニ爲サスシテ下ルコトヲ得ス。

第十八 事故發生ノ場合ニ於ケル停車ノ義務

車馬ノ操縦者ガ事故ヲ惹起シテ他人ニ傷害ヲ與ヘ若ハ死ニ至ラシメタル場合又ハ財産ニ損害ヲ及ホシタル場合ニハ、該操縦者ハ直ニ其ノ車馬ヲ事故ノ發生シタル地點ニ停止シ自己ノ姓名、住所、車馬ノ登録番號ヲ負傷者又ハ衝突シタル車馬ノ操縦者若ハ所有者ニ告ケ、其ノ事故ニ因ル負傷者ニハ必要ナル助力ヲ與ヘ又ハ之ヲ醫師若ハ外科醫ノ許ニ運ヒ、明ニ必要ナルトキ若ハ負傷者ノ要求アルトキハ醫療手當ヲ受ケシムヘシ。

前項ノ規定ニ違反シテ他人ヲ傷害シ若ハ死ニ至ラシメタル事故ヲ惹起シタル後停車セサル者ハ都市刑務所ニ於ケル三十

日以上一年以下ノ禁錮若ハ百弗以上五千弗以下ノ罰金又ハ其ノ兩者ニ處ス。又前項ノ規定ニ違反シ他人ノ財産ニ損害ヲ及ホシタル事故ヲ惹起シタル後停車セサル者ハ輕罪ニ處ス。

第十九 事故届出ノ義務

一 車馬ノ運轉者ニシテ他人ニ傷害若ハ死ヲ與ヘタルトキ
 (又ハ五十弗以上ノ財産上ノ損害ヲ與ヘタルトキ)ハ、
 二十四時間以内ニ本(市)ノ警察署ニ之ヲ届出ツヘシ。

二 警察署ニ於テ前項ノ届出ヲ州廳ノ自動車課ニ報告セサル場合ニ於テハ、該警察署ハ右届出ニ係ル事故ヲ表別ニシ其ノ原因ヲ調査シテ道路交通事故ノ數、原因及地點等ノ統計ヲ作り、年々又ハ年數回之ヲ公示スヘシ。

第二十 自動車々庫所有者ノ破損車輛ノ届出

自動車々庫ノ所有者又ハ自動車ノ修繕業者ニシテ明ニ重大ナル事故ヲ惹起セル證據アル自動車又ハ銜彈ノ痕跡アル自動車ヲ受付ケタル者ハ其ノ時ヨリ二十四時間以内ニ該車輛ノ機關番號、及所有者若ハ操縦者ノ住所姓名ヲ具シ本(市)警察署ニ之ヲ届出ツヘシ。

頁	段	行	誤	植	訂	正
一〇四	上	四	供スルニ		供スル爲ニ	
一〇五	上	二	從事スル者		從事スル爲	
〃	下	五	電力ト		電力ニ依ルト	
一〇六	下	四	適法命令		適法ノ命令	
〃	〃	三	非常ニ際シ		非常時ニ際シ	
一〇七	下	三	任意力		注意力	
〃	〃	六	要セザル旨ノ		要セザル場合ニ於テハ、 其ノ標識ヲ設ケサル旨ノ	
一〇八	下	一	八 適法ニ		適法ニ	
一〇九	下	三	標語		標識	
〃	〃	九	認ム		認ムル	
一一〇	下	七	施設ニ於テハ		施設アル地點ニ於テハ	
〃	〃	一	五 操縦者ノ		操縦者ガ歩行者ノ	
一一三	下	一	四 運轉中		轉轍中	
一一五	上	七	車馬ヲ操縦スルハ		車馬ノ操縦者ハ	
一二六	下	八	幅員二十呎以上ノ		幅員三十呎以上ノ	
一一八	上	一	七 車上		車道上	